

GREEN RADAR

Vol.510
2021

11

Contents



自己改革工程の進捗状況について

A-Policy【重点事業方針】

・生活部生活課の取組み

A-Reports

- ・松本山雅FCホームゲームで「JA全農長野デー」…………… 5
- ・「クイーンレージュ。」と「ぶどう三姉妹。」をPR…………… 6
- ・長野県中央家畜市場子牛共進会…………… 7
- ・テレビCMで日本酒消費拡大を…………… 7
- ・北陸新幹線あさま612号で運ぶJAながの産地直送ブドウ販売………… 8
- ・JA長野県定食メニューで長野県JA産農産物をPR…………… 8

- ・古往今来…………… 9
- ・今月のおすすめレシピ…………… 10
- ・JA全農長野の事業現況…………… 10
- ・11月のラジオ番組表…………… 10
- ・編集後記…………… 10



© 松本山雅 FC



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

自己改革工程の進捗状況について

全農長野県本部は、ＪＡおよび子会社とともに、ＪＡ自己改革の進展を加速化させ、農業所得の増大と地域の活性化に取り組んでいます。

I.【中期事業計画における基本目標】令和3年9月末時点での総括

その1 積極的な生産振興に基づく農業生産基盤の維持強化

- (1) マーケットインを起点とした生産振興に向け、生産安定技術の産地への推進、規格簡素化等の作業軽減による業務加工需要への対応産地の拡大に取り組みました。
- (2) 生産安定と収量増を目指した施設化をすすめるとともに、ＪＡとの経営規模拡大に向けたスマート農業推進のための情報共有と導入に向けた取り組みをすすめました。

その2 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化

- (1) 総合品目による安定供給体制の推進と卸売会社等との連携強化をはかるとともに、新規商品開発や付加価値を高めた商品提案・企画提案による販売拡大に取り組みました。また、販売力強化に向け、eコマース事業の活用方法検討と拡大に取り組みました。
- (2) 資材の規格・原材料集約や農家直行配送方式の拡大による配送効率化、および低価格モデル農機の共同購入や農機県域推奨型式の拡大、中古農機流通促進により生産コストの抑制に取り組みました。

その3 経済事業拠点の合理的・効率的な運営整備

- (1) 県域物流拠点の補完機能強化およびＪＡ資材店舗・物流拠点の再編整備の提案をすすめました。
- (2) 輸送効率化に向けパレット輸送やモーターシフト輸送の試験を実施し効果の確認に取り組むとともに、輸送効率化に適合した段ボール等資材の検討・試験を引き続き実施しました。

2. 生産者手取りの最大化に向けた販売力の強化

(1)重点実需者への総合品目供給に向けた目標設定と推進	野菜…37% 花き…15% きのこ…80%	契約取引前年比100%へ微減見込み 需要期の特注推進 えのきたけ84%ぶなしめじ81%なめこ80%	お中元ギフト、輸出ともに堅調に推移。出荷時期、数量、品質に見合った企画修正および提案価格の調整を行う。 業務加工向けの取引量減少やレタス類の多雨等による大きな欠品が発生。 契約率の見直しと欠品時の付帯条件の整理、取引条件の精査と品質改善の検討。 益・彼岸時の商談等による予約相対の拡大と進捗管理、予約数量の目標数値設定と欠品時の対応方法の検討。
(2)商品開発力・提案力の強化による販売拡大 ①加工向け果実の集荷拡大専用栽培舎 ②業務加工用キャベツ拡大 ③量販向け「ギョク栽培	①2500t ②6,900t ③2500万本	リンゴ3t ブドウ20t 契約数量を前年並みに維持 ＪＡ別の課題整理と、更なる生産振興に向けた動機づけがはかれるよう、反省会や研修会を企画する。	リンゴはカットリンゴ向け、ブドウは業務用の集荷拡大に取り組んだ。ＪＡとの新規取引組み拡大、次年度に向けたクイーンジョウの提案を行う。 品質低下の指摘が多いため、栽培体系や品種選定の見直しを行い、品質確保と契約遵守に努める。 ＪＡ別の課題整理と、更なる生産振興に向けた動機づけがはかれるよう、反省会や研修会を企画する。

3. マーケティング情報に基づく生産販売提案の取り組み強化

(1)実需者や卸売会社との情報連携による新規品目や生産拡大の取り組み実施 ①果実…新品種シナノリッパ他 ②野菜…業務用ナマリ拡大他 ③花き…業務用トルコギキョウ他 ④きのこ…商品企画提案、業務加工需要供給ルート開発の実施 ⑤営業課…新規品目・商品企画提案、供給ルート開発の実施	①果実2件 ②野菜2件 ③花き 県内実需者取引拡大 ④きのこ4件 ⑤営業課5件	2件 2件 県内実需者でのフル実施 4件 29件（供給拡大11件、新規16件、切替2件）	クイーンジョウ露地本格出荷開始のほか、スイツ・外食業態への提案、シナノリッパタイプアップ商品への原料出荷を実施。クイーンジョウは次年度に向けた品質規格検討を行う。 業務用ナマリは数量前年比96%、水菜・壬生菜14%。次年度に向けた推進に取り組む。 商談による新規取引を開始した。今後はＪＡタウンでの販売に向けた打合せ、冬季品目の商談を実施する。 栄養機能食品えのきたけ・ぶなしめじ各1アイテムを5月より販売開始したほか、まいたけ・ぶなしめじの業務用新規取引を開始した。供給拡大に向け推進を継続する。 取引先およびＪＡとの連携、営業推進強化により拡大をはかった。新規取引の開拓、既存取引先の新規品目、企画提案を継続して行う。
---	---	--	---

II. 各事業別 令和3年9月末進捗状況

【生産振興部】

実行員体系

3年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. マーケットインを起点とした生産振興の推進

(1)マーケットインに基づく品目提案 ①品目の選定と生産安定技術の推進 ②多収性と労働生産性向上が望める生産技術の普及推進 ③業務加工需要に対応する産地の拡大	①実証圃を活用した産地推進 ②普及 ③拡大	①実証圃での試験・データ収集 ②研修会開催 ③産地と実需者との調整	①ピーマン実証圃でかん水や栽培試験のデータによる栽培技術の周知と生産拡大を推進。 ②リンゴ高密植わい化栽培の推進。 ③業務向けキャベツやキュウリの取組拡大を推進。
--	-----------------------------	---	---

2. 生産安定に向けた施設化の推進

(1)生産安定と収量増を目指した野菜類の施設化推進 ①適正な強度を備えたトレリス・平棚ハウス・果樹多目的ネット等の設計施工と推進 ②生産安定と収量増を目指した野菜類の施設化推進 ③養液栽培などの高度技術の普及推進	①普及への検討 ②推進 ③推進	①モデル圃の準備 ②モデル圃の設置 ③研修会開催	①災害に強いトレリスのモデル圃の設置に向け調整中（4箇所目）。 ②③果菜の施設栽培事例等の情報発信による生産拡大。
---	-----------------------	--------------------------------	--

3. 経営規模拡大に向けた最先端農業機械の導入推進

(1)スマート農業推進に向けた品目選定と導入目的の選定	試験導入検討	①ドローン実証実験 ②自動草刈機	①実証試験や実演会のデータを基に、活用方法の更なる研究と実用の提案。 ②リンゴ園でのソーラーパネルを利用した自動草刈機の省力化試験の結果報告。
-----------------------------	--------	---------------------	--

4. 優良種苗の安定生産推進

(1)種苗センターにおける優良種苗の安定生産体制の強化	170万本	146万本	生産工程ごとの品質管理強化と品質向上に向けた技術研究。
-----------------------------	-------	-------	-----------------------------

5. 品目別研修会の計画的開催

(1)指導者会議専門4ブロック活動との連携	60回	24回	各ブロック・部門ごとで栽培技術・知識の習得と連携強化。
-----------------------	-----	-----	-----------------------------

【生産販売部】

実行員体系

3年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 長野米営業力強化

(1)直接営業による販売比率90%達成 ①実需者への直接営業の拡大 ②重点実需者への複数年契約推進	①92% ②3年産35,000t	3年産49%（実需者が明確な契約比率） 3年産30,387t	3年産米事前契約の最終推進。 3年産米事前契約推進および複数年契約提案。
---	---------------------	-----------------------------------	---

4. 集出荷機能の強化と広域的利用体制の確立

(1)ＪＡとの連携・共同による広域集出荷拠点の整備とバラ集荷・買取集荷の実施	果実…モデル構築新規1件	1件	高密度リンゴ栽培専用取引に向け商談を実施。11月～年末より開始予定。出荷希望生産者のリストアップおよび圃場指定、精算方法の調整、計り売りの試験を実施する。
(1)遠隔地輸送におけるモデルシフト検討	九州向け輸送部分導入支援	船舶利用の導入提案	ＪＡ・輸送協力会へ継続して導入提案を行う。
(1)パレット輸送試験の実施による効果検証	きのこ…賞与型パレットによる集出荷対策構築	県内卸売市場との連携協議	貸与型パレットでの集荷は未達。実需者販売県内市場連携販売の構築実施。
(1)類似規格の集約化、材質・才数の変更提案	3品目	4品目	りんご贈答用段ボールの他産地規格の変更。 キャベツ・もも等で集約検討をすすめる。
(1)ショートリッパ化の品目拡大、撥水原紙の見直しによる過剰包装の見直し	13規格	9規格	りんご・青ネギ・ナガイモで撥水原紙からの切替え実施。 もも・トルコギキョウ等の切替え検討をすすめる。
(1)より安価なBB原料への切り替え拡大	3銘柄	1銘柄	菜種粕から価格変動が安定しているひまし油粕・B52への切替をすすめている。
(2)農業担い手直送規格の普及面積拡大	3,500ha	4,571ha	新規除草剤の拡大により計画達成。

【生産購買部】

実行員体系

3年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 段ボール規格集約による価格値下げ

(1)類似規格の集約化、材質・才数の変更提案	3品目	4品目	りんご贈答用段ボールの他産地規格の変更。 キャベツ・もも等で集約検討をすすめる。
------------------------	-----	-----	---

2. 段ボール適正包装の提案推進

(1)ショートリッパ化の品目拡大、撥水原紙の見直しによる過剰包装の見直し	13規格	9規格	りんご・青ネギ・ナガイモで撥水原紙からの切替え実施。 もも・トルコギキョウ等の切替え検討をすすめる。
--------------------------------------	------	-----	---

3. 低コスト・省力資材の開発、実証、普及

(1)より安価なBB原料への切り替え拡大	3銘柄	1銘柄	菜種粕から価格変動が安定しているひまし油粕・B52への切替をすすめている。
(2)農業担い手直送規格の普及面積拡大	3,500ha	4,571ha	新規除草剤の拡大により計画達成。

4. 担い手への提案型推進の強化

(1)担い手への「わたしの肥料」提案推進	4,430t	4,721t	畑作地帯での新規推進を今後すすめる。
(2)農家直行配送の拡大推進 ①BB肥料工場・農家間直行配送 ②農業県域物流基地・農家間直行配送	①2,600t ②2200戸	①1,792t ②289戸	①わたしの肥料と並行した推進をすすめる。 ②水稲 果樹で大幅に増加した。

5. 低価格モデル農機の共同購入

(1)第2弾共同購入トトラクターSL33L33馬力の供給拡大	成約累計75台	成約累計45台	9月末計画(成約累計55台)は未達。販促企画の展開など受注促進をはかる。
--------------------------------	---------	---------	--------------------------------------

6. 重点購買による農機県域推奨型式の機種拡大

(1)県域推奨機種の型式追加設定	累計8型式	選定委員へのアンケート実施	アンケート結果を踏まえ、来春からの取扱いに向け、年内には方向付けする。
------------------	-------	---------------	-------------------------------------

7. 中古農機の流通促進

(1)中古農機情報サイトによる流通促進	成約30台	成約10台	玉不足により9月末計画(成約20台)未達。買取を拡大し、玉確保をすすめる。
(2)「不用農機査定買取」取組JAの拡大	5JA実施	協議中	冬場での取り組みに向けJAとの具体的な取り組みの協議をすすめる。

【畜産酪農部】

実行員体系

3年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 生産基盤の維持確保

(1)生乳出荷量、酪農家戸数の維持確保	84,500t(255戸)	44,184t(252戸)	導入対策と生産成績向上による生産量向上をはかる。
(2)性別別精液普及	2,000本	1,159本	精液活用による計画的後継牛生産についての情報発信および推進を行う。

2. 信州産ブランドの確立

(1)信州プレミアム牛肉の生産販売	2,300頭	1,062頭	消費が落ち込む中、計画△38頭となった。有利販売実践により頭数確保をはかる。
(2)銘柄豚の特色ある販売方式の拡大	10銘柄継続	10銘柄継続	次年度取引に向け協議をすすめる。

3. 県本部生産農場の機能発揮

(1)素子豚供給頭数(SPF豚繁殖センター)	22,500頭	11,346頭	多産系母豚の稼働、生産性向上により、ほぼ計画通りの進捗となった。冬季の飼養管理強化により事故率軽減をはかる。
(2)預託牛事業拡大による農家経営支援(三岳牧場)	410頭	310頭	ホルス預託前年△95頭、大口酪農家の預託牛減少による。関係JA専門酪と連携し、預託条件の検討を行う。
(3)牛乳出荷量の確保(八ヶ岳牧場)	1,860t	858t	個体乳量増加のための生産性向上対策をすすめる。

【生活部】

実行員体系

3年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 農業生産用燃料支援対策の実施

(1)軽油・灯油・重油の配達供給	16,500kℓ	5,300kℓ	JA・県本部体となった担い手農家支援として、軽油支援対策を4～11月、灯油・重油支援対策を10～3月に実施中。
------------------	----------	---------	---

2. JAのLPGガス小売事業強化

(1)新規顧客獲得による供給戸数確保	117,500戸	118,731戸	競合他社社替防衛マニュアルを活用したJA営業体制の強化、新規顧客獲得の推進施策継続等により、供給戸数は計画値を確保している。
--------------------	----------	----------	--

3. 電力小売推進体制の強化

(1)組合員向けの電力供給開始に向けた取り組み促進	低電圧供給 県下2,000戸	低電圧供給 県下800戸	JAでんき取扱が4JAに拡大し、職員・組合員推進を実施中。取扱JAのさらなる拡大により契約戸数の拡大をはかる。
---------------------------	-------------------	-----------------	---

4. JA自動車事業の収支改善

(1)取扱台数の拡大	2,750台	1,138台	半導体供給不足による納期遅延等により、登録台数は低調であるが、「JAサンバー」の限定車推進を強化し、「JAキャンイー」のPR・取扱強化により台数拡大をはかる。
------------	--------	--------	---

5. 生活事業取扱強化

(1)推進体制強化による宅配おまかせ会員を主とした戸数の維持	おまかせ会員 6,500戸 新規会員 1,000戸	おまかせ会員 5,480戸 新規会員 298戸	JA広報誌や新聞でのPR掲載およびキャンペーンの実施と新たな推進資材を活用した新規獲得を行っている。今後、TVCMの放映にあわせた推進の強化をはかる。
(2)虹のホールグループセレモニ―施行件数とシニアの確保	8,700件 (シニア34%)	4,002件 (シニア32%) (3～8月)	小規模葬が加速する中、新たなネット広告の配信や小規模葬のプラン充実をはかり施行件数に努めている。今後も統活動の強化により件数・シニア確保をはかる。
(3)JAとの連携強化による家庭薬新規戸数拡大	100戸	36戸	引き続き、新規配置キャンペーンの取り組みやJA広報誌への掲載などJAと連携したPR活動を行い、戸数確保に取り組み。

生活課

生活部生活課の取組み
「長野県米消費拡大運動 生切りもちの推進について」

JA長野県グループでは、令和3年9月開催の第6回JA長野県農政対策会議において、長野県産もち米(品種:もちひかり)を100%使用した「生切りもち消費拡大運動」に取り組むことを決定しました。

生活課では今年度も生切りもちを「組織重点品目」として位置づけ、10月から12月の期間、県下23,000箱を目標に取組みを行っています(令和2年度実績は22,229箱)。

価格は昨年同額の1,490円(税込)で、贈答用にも適している化粧箱(1kg×2袋入)でのお届けとなります。

生切りもちの特長は
①昔ながらの「杵つき製法」で製造しており、粘り・コシが出て、良い食感の餅となっている。
②ひと切れずつ個包装しているため衛生的です(1袋あたり20個〜22個入り)。
③もちに切れ目が入っているため、ふっくら焼けるだけでなく、割ることもできます。

もち米は、普段主食として食べられているお米と異なり、お餅等特定の加工品の主

原料のため、もち米の価格は需要と供給の影響を受けやすい特徴があります。そのため生産者の収入に影響するだけでなく、次年度の生産計画量にも関係してきます。実際、県内のもち米の生産量が減少したこと

から、平成26年度〜28年度は県内産での商品化が困難となり「国内産」もち米を使用した取組みとなりました。平成29年度以降は計画的に原料米手配を進め、「県内産」生切りもちの商品化を行ってきました。

今後も、県内産もち米の需給喚起と消費拡大を図り、生産者の所得向上や安定生産に繋がるよう、JA長野県グループが一体となつて取組みを行っていきます。

年末年始のお雑煮、おしるこだけでなく、普段のお食事にもおいしいお餅を召し上がっていただけると幸いです。皆さまのご協力をお願いします。



化粧箱入りで贈答用にも適している

組合員・地域の皆様へ

長野県産もち米100%使用

杵つき 生切りもち

長野県産 もちひかり使用

- 昔ながらの杵つき製法で、粘り・コシが良いことが特長です。
- ひと切れずつ個包装しており衛生的です。(1袋あたり20〜22個入り)
- もちに切れ目が入っておりふっくら焼けます。(割ることも出来ます)
- 化粧箱に入っているため贈答用にも使えます。

長野米消費拡大運動

JA長野県グループは、良質な長野県産もち米(もちひかり)を100%使用した「生切りもち」による長野米消費拡大運動を実施いたします。長野米消費拡大に対する皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2kg 化粧箱 (1kg×2袋入り) **1,490円** (税込価格)

(参考本体価格1,380円)

松本山雅FCホームゲームで「JA全農長野デー」

JA全農長野は9月26日(日)、松本平総合球技場「サンプロアルウィン」で行われたJ2第31節 松本山雅FC対ギラヴァンツ北九州戦で「JA全農長野デー」を開催しました。全農長野では松本山雅FCのスポンサー活動をと

おして、多くの皆様からの産地理解や全農長野をはじめとしたJA長野県組織に関心を持っていただくきっかけにしたい、と取り組んでいます。昨年は中止となったJA全農長野デーですが、今年は新型コロナウイルス



株松本山雅の神田文之社長(左)に「ぶどう三姉妹」を贈呈する伊藤会長(右)

ス感染予防のためサポーター対象のイベントは行わず、ピッチでのセレモニーと来場者プレゼント提供を実施しました。キックオフ前のピッチでは、全農長野運営委員会の伊藤茂会長が「これからサポーターの皆様と共に、地元の農業と、

地域の誇りである松本山雅を応援してまいります」と挨拶すると共に(Ⅱ表紙右)、今年本格デビューした「ぶどう三姉妹」を贈呈しました。御子柴茂樹副会長のキックインセレモニーで試合開始となり、ハーフタイムには竜野竜生産販売部長がこの秋デビューした新品種のブドウ「クイーンルージュ」をPRしました。

また、試食イベントの代わりとして県産農畜産物を大勢の皆様味わっていただくことと来場者プレゼントを100名分提供しました(内容別表)。



大型ビジョンでも全農長野デーをアピール

来場者プレゼント

プレゼント内容	当選者数
ぶどう三姉妹 (各1房入り)	5名様
長野県産コシヒカリ (2kg)	30名様
ポケットライス (コシヒカリ 300g、オリジナルパッケージ入り)	25名様
ハクサイ (1玉)	12名様
きのこセット	10名様
もちもちミルクパン (10個入り)	5名様
信州アルプス牛 (500g)	2名様
乳製品セット	10名様
選手サイン入り公式練習用ボール	1名様



ハーフタイム生CMで「ぶどう三姉妹」をPRする竜野部長(右)

「クイーンルージュ」と「ぶどう三姉妹」をPR

JA全農長野果実課は、長野県オリジナルぶどう「クイーンルージュ」のデビューと、本品種にナガノパープル、シャインマスカットを合わせた3色ぶどうを「ぶどう三姉妹」として位置付けて、PR展開を行いました。

1. ぶどう三姉妹フェア

東京・福岡の「みのりみのるカフェ・食堂」で、3品種を使用したパフェやフルーツサンドを販売しました。長野市内の「かんでんぱばcafé T.O.i.G.O店」「藤屋御本陣」「八幡屋磯五郎 横町カフェ」では、お客様に生果での試食品を提供しました。実際に食べて体験してもらう機会を



長野市内ではぶどう三姉妹を生果で提供

2. 置き型社食

(株)KONPEITOと連携しオフィスに設置された専用の冷蔵庫にぶどう三姉妹の粒パックを提供しました(27都府県596カ所)。コロナ禍ということもあり、社食などでのPR活動が難しい状況ではありますが、職場に直接届けるという新たな手法を活用して実施しました。



みのり・みのるカフェで提供したぶどう三姉妹パフェ

置き型食堂のぶどう三姉妹粒パック

広い地域に長野県産ぶどうの訴求を行うことができました。

3. メディア

日経MJの紙面広告を皮切りに、テレビではフジテレビ系列「フンストップ!」、ラジオでは全国8局16番組において、爆笑問題・ナイツ・いとうあさこなどの著名人による試食レポートと情報発信を行いました。出荷が本格化する時



TOKYO FM「COUNT DOWN JAPAN」でのPR

期に、非常に大きな反響を呼んだことで、本会だけでなく流通関係者への問い合わせも多く、販売も順調に進めることができました。

待ちに待った赤系ブドウということで、高い期待度の中、販売流通関係者からも評価を得ることができました。来年はさらに数量が増える見込みから、長野県JAグループ・各関係機関が一丸となって力を合わせて品質の向上・安定化の実現を図って参ります。

クイーンルージュ デビュー!

長野県果樹試験場が育成した新品種です。露地の成熟期は9月下旬ごろで「シャインマスカット」とほぼ同時期です。糖度が高く、皮ごと食べられる、種なしぶどうです。

長野県 ぶどう三姉妹

ナガノパープル
シャインマスカット
クイーンルージュ

信州 JA全農長野
光と風と水のハーモニー
生産販売部果実課 TEL 026-236-2222 https://www.nn.zannoh.ac.jp/

国際果実野菜年2021
オフィシャルサポーター
JA全農長野は、信州産の果実、野菜、おひきこの消費振興活動を通じて、食生活に取り入れる重要性を啓蒙します。

全国農業試験場研究会
長野県本部
代表 伊藤 茂

長野県知事
阿部 守一

長野県が育成したぶどう「クイーンルージュ」は、27年デビューします。9月下旬から本格的に販売が開始し、今年には約300haの面積が栽培されています。デビューに合わせ、信州の各産地や果実関係者でPRの活動を実施します。長野県内では「クイーンルージュ」を使った「フルーツサンド」や「フルーツパフェ」を展開する予定です。また「クイーンルージュ」を使った「フルーツパフェ」や「フルーツサンド」を展開する予定です。また「クイーンルージュ」を使った「フルーツパフェ」や「フルーツサンド」を展開する予定です。

日経MJに掲載した一面広告

畜産課

長野県中央家畜市場子牛共進会

去勢の部／JA木曽の田中昭人さん、
雌の部／JA木曽の大久保喜代文さんが最優秀賞（県知事賞）受賞

JA全農長野畜産課は10月7日（木）、生産子牛の品質向上を目的に、木曽町にある長野県中央家畜市場で「長野県中央家畜市場子牛共進会」を開催しました。

審査には、県内の生産者から合計18頭（去勢8頭、雌10頭）が出品され、神田章審査委員長（長野県畜産試験場長）をはじめ6名の審査員が、個体ごとの優秀性を厳正に審査しました。

清々しく晴れ渡った秋らしい青空の下、県下各JAの生産者から選りすぐりの子牛が出品され、各JAおよび関係者協力のもとで開催することができました。10月の子牛市場セリ前に行われたこともあり、生産者や購買者にも注目される共進会となりました。

最優秀賞ならびに県知事賞に選ばれた、去勢の部の田中昭人さん（JA木曽）、雌の部の大久保喜代文さん（JA木曽）の子牛は共に、体高、胴伸びがあるうえに背線がしっかりといて深みがあり、今後の成育が期待できる子牛であることが評価されました。

優秀賞には、去勢の部で小山清志さん（JAみなみ信州）と伊藤太郎さん（JA長野八ヶ

岳、雌の部で三沢千秋さん（JA木曽）と高坂孝明さん（JAみなみ信州）が入賞しました。

この子牛共進会終了後に10月度のセリが行われました。子牛286頭が上場され、284頭が成立しました。長野県中央家畜市場で取引される子牛は、県内はもとより、県外の肥育農家にも購買いただき、高い評価をいただいています。繁殖農家に大切に育てられた子牛が肥育農家へと、育ての親が代わる、子牛たちにとって、いわば「出会いと別れの場」でもあります。

畜産課では、これからも長野県中央家畜市場運営と共に、素牛生産基盤を維持し、より一層の子牛品質向上に取り組みで参ります。



子牛共進会 審査の様子

米穀課

テレビCMで日本酒消費拡大を

JA全農長野米穀課は、消費が落ち込んでいる清酒の消費回復を図ろうと、10月6日（水）から県知事や県内酒蔵の杜氏などが出演するテレビCMを放送しています。

日本酒造組合中央会のま

とめによると、今年7月1カ月間の長野県の清酒出荷量は557・4キロリットルと、コロナ前の2019年の679キロリットルと比較すると82%に落ち込んでいます。

このような状況を受けて、県産米で仕込まれた清酒を多くの消費者に飲んでもらいたいと、「贈り物には信州の日本酒を」と働きかけるテレビCMを制作しました。



本年はG-I指定や全国新酒鑑評会で金賞受賞数が全国1位に輝くなど、県産清酒にとって記念すべき年となっています。関係機関と連携し、消費回復や贈答需要の掘り起こしに取り組ま

北陸新幹線あさま612号で運ぶJAながの産地直送ブドウ販売

JA全農長野東京販売事務所は、JAながのの協力のもと、新幹線でのブドウ輸送と百貨店での販売を行いました。

10月7日（木）、JR長野駅9時26分発の新幹線でJAながのの産のブドウが発売し、JR東京駅に到着後、阪急百貨店大井食品館澤光青果大井町店で販売されました。店頭では午後1時からの販売を前に長い列ができ、お客様の待ちに待った様子が伺えました。本年度本格デビューしたク



屋外の特設会場で販売

も多く、販売開始10分でクイーンルージュ®とナガノパールは完売。シャインマスカットをメインに用意した全50ケース／5kg箱のブドウは、2時間で完売するほど人気でした。お客様は「長野のブドウはおいしい。楽しみにしていた」と好みのブドウを購入され販売店とお客様の双方から非常に好評で、ぜひ次回も開催してほしいと熱望される宣伝会となりました。

今回、新幹線で運ぶことにより、産地直送の鮮度感や付加価値をアピールした販売につなげることができました。東京販売事務所では、新しい取り組みから、より多くの消費者の皆様



新幹線にブドウを搬入

JA長野県定食メニューで長野県JA産農産物をPR

JA全農長野福岡販売事務所は、地元九州メディアARKB毎日放送（株）のラジオ番組で長野県JA産農産物PR「箱ごとプレゼント」を実施しています（本誌10月号7ページ参照）。これに連動し、同社の社員食堂で長野県JA産農産物をPRしました。

8月23日（月）から27日（金）に、夏リンゴ「サンつがる」を定食メニューのデザートとして添え、定食以外を注文したお客様にも配布しました。

9月15日（水）には、長野県JA産青果物をメインにした1日限定の定食メニューを作成していただきました。定食メニュー用に秋野菜（白菜、白ネギ）、きのこ3品（えのきたけ、ぶなしめじ、エリンギ）、リンゴ（すわっこ）を提供し、食堂内を販促資材で装飾しました。1日限定の「JA長野県定食」は、通常より多く用意したにもかかわらず開店1時間で完売しました。リンゴは「甘くてジューシー」との感想もいただき、試食宣伝ができない中で長野県JA



8月23日から27日に提供されたサンつがる

産の食味を伝えられる良い機会となりました。また、間接的ではありますがメディア関係者への情報発信にもなりました。

福岡販売事務所では、新たな生活様式に合わせて宣伝手法を工夫し、長野県産農産物のファン獲得と消費拡大に取り組んでまいります。

《9/15 限定・JA長野県定食メニュー》

メイン：信州きのこ3種入カレーライス
小 鉢：はくさいとリンゴのフレンチサラダ
スー プ：白ネギと卵のスープ
デザート：リンゴ1片



東京販売事務所

福岡販売事務所

グリーンリーダー11月号（毎月発行） 2021年10月20日発行 第510号
 発行／JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 発行人／高田武司 印刷／PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3

Q
Queen Rouge

クイーン
女王が、
うっとりする
甘さ。

Queen Rouge
Q

クイーンルージュ®



光と風と水のハーモニー
JA全農長野



光と風と水のハーモニー
JA全農長野



JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
 インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

